



『松本市文書館などを
見学して』

小諸市立郷土博物館

館長 斎藤 洋一

古文書にかかわる昨年の長野県内における最大のニュースは、「松本市文書館」が新築されたことだろうと思います。過日見学に行ってきましたので、少し紹介します。

同館は、松本市史編さん事業の過程で収集された史資料と、公文書を「市民」と「将来の市民」に伝えるため、一九九八（平成十）年に旧芝沢支所・公民館に開設されました（県内初の市町村文書館）。その建物が老朽化し、かつ手狭になったことから昨年、松本市第二学校給食センター跡地（鎌田地区）に新築したそうです。市町村財政のきびしいおりに新築するとは、さすが「学都」を誇る松本市だなあと思われました。もちろん、旧館に耐震化工事などを施す場合と、新築する場合の費用、メリット・デメリットなどを検討した結果、新築を選んだとのことですが、新築ですら、施設も立派

で、耐震・耐火性にすぐれていることはもちろんです。加えて「歴史的公文書や史料を研究・活用することができ、閲覧スペースや講義室等の機能を充実させ、小中学生から高齢者まで、すべての市民がより利用しやすい、人と情報の交流拠点となる施設を目指す」としているところが、すばらしいと思いました。

文書館とは名のつていますが、二〇〇三（平成十五）年に開設された「飯田市歴史研究所」も注目されます。これも見学に行ってきました。「市制七十周年に向けて、当初は市誌編さん事業を企画しましたが、その後単に冊子の刊行だけを目的とせず、市の恒久的な文化事業の一環として、地域の歴史・文化を調査・研究し、その成果を現在そして未来の市民に還元しようとする『総合的かつ恒常的地域史研究事業』方針のもとに、飯田市歴史研究所を上郷自治振興センターの二階・三階に開設したのでした。ここでも、古文書・公文書の収集・保管、整理・研究、そしてその成果を市民に還元する講座や講演会、出版などがさかんにおこなわれていま

す。インターネットで「飯田市歴史研究所とは？」を見ると、「活力ある地域づくりを目指して、地域の歴史・文化を調査・研究するための機関です」と表示されます。この理念がすばらしいと思います。長野県内では、長野市が二〇〇七（平成十九）年に「長野市公文書館」を城山分室に、小布施町が二〇一三（平成二十五）年に「小布施町文書館」を旧図書館に開設しました。

近年、公文書管理法や情報公開法・公文書管理法が制定され、市町村でも公文書を厳格に保存・管理することが求められています。また、最近の調査で小諸市にかかわる貴重な古文書が膨大に伝来していることも明らかにされました。それらの古文書の中には、市が保管しないと散逸してしまいかねないものもあります。そうなったら、市の歴史を後世へ伝えることができなくなってしまうのです。

市の貴重な古文書・公文書を保管し、歴史の解明を進めるための文書館が、「歴史と文化のまち小諸市」にも必要ではないかという声を聞くことが、最近多くなりました。なお、古文書の保管に困っておられる方は、どうぞ郷土博物館へご相談ください。（飯田市・国立公文書館のホームページ、飯田市歴史研究所紀要を参照した。）

五行歌

こもる五行歌の会

目標を
田沼 邦夫
古びたペン先から
菊地 英之

決めるといっのは
最上の喜び
コーヒを含んでは
攻め方を練っていく
溶けたインクが
浸した水を染めていく
青い吹き出しのような
父のつぶやき

過ぎてから
高橋 由紀子
「大きくなって
大池 佳子
知ることばかりだ
親の気持ちや
おばあちゃんと遊んでね」
「うん、いいよ」
豊かなお正月の
薫風をまとったような
出来事など
心地良さ

区内放送の
柳澤 由美子
夫の声に
甘利 滋子
飼いだ
ウォンウォンと
幸せなのではないか
いつか回想する日がくる
反応する